

英国と欧州における 気候市民会議の最近 動向

- スティーブン・エルスタブ教授
- ニューカッスル大学
- stephen.elstub@ncl.ac.uk
- @StephenElstub

※ 本スライドの翻訳は事務局による仮訳です。
原文と照らし合わせて確認していますが、正確
な理解のために、原文も参照されることをお勧
めします。





主な内容

気候市民会議の必要性

気候市民会議の論理

ヨーロッパの気候市民会議

気候市民会議の教訓と今後の方向性

市民の巻き込みと気候ガバナンス

- 気候変動に関する議論の見物人としての市民
- 気候問題に特定グループの代表が少ししか参加していない
- 気候変動に起因する課題に関する市民の理解を高める
- 気候変動対応に必要な政策への市民の同意を強める
- より野心的な政策立案を可能にする
- 市民に気候変動の意識を高めた行動変容を促す
- 合理的で公正な決定



政治的参加の課題

1. 参加者の人口構成の偏り
2. 知識の不足
3. 新しい考えを受け付けない



気候ガバナンスにおける代議制民主主義の制約

- 投票への動機づけ
- 短期的な政治サイクル
- メディア・ナラティブ
- ロビイング
- 「気候変動の遅れ」という言説
(気候変動の存在を認めながらも、不作為や不十分な取り組みを正当化)





気候市民会議とは何か

- 市民による会議の一種
- 気候ガバナンスの側面に着目
- 多様な市民の代表
- 参加への障害を低くする
- バランスのとれた情報
- 議論を促進
- 提言
- 制度的つながり

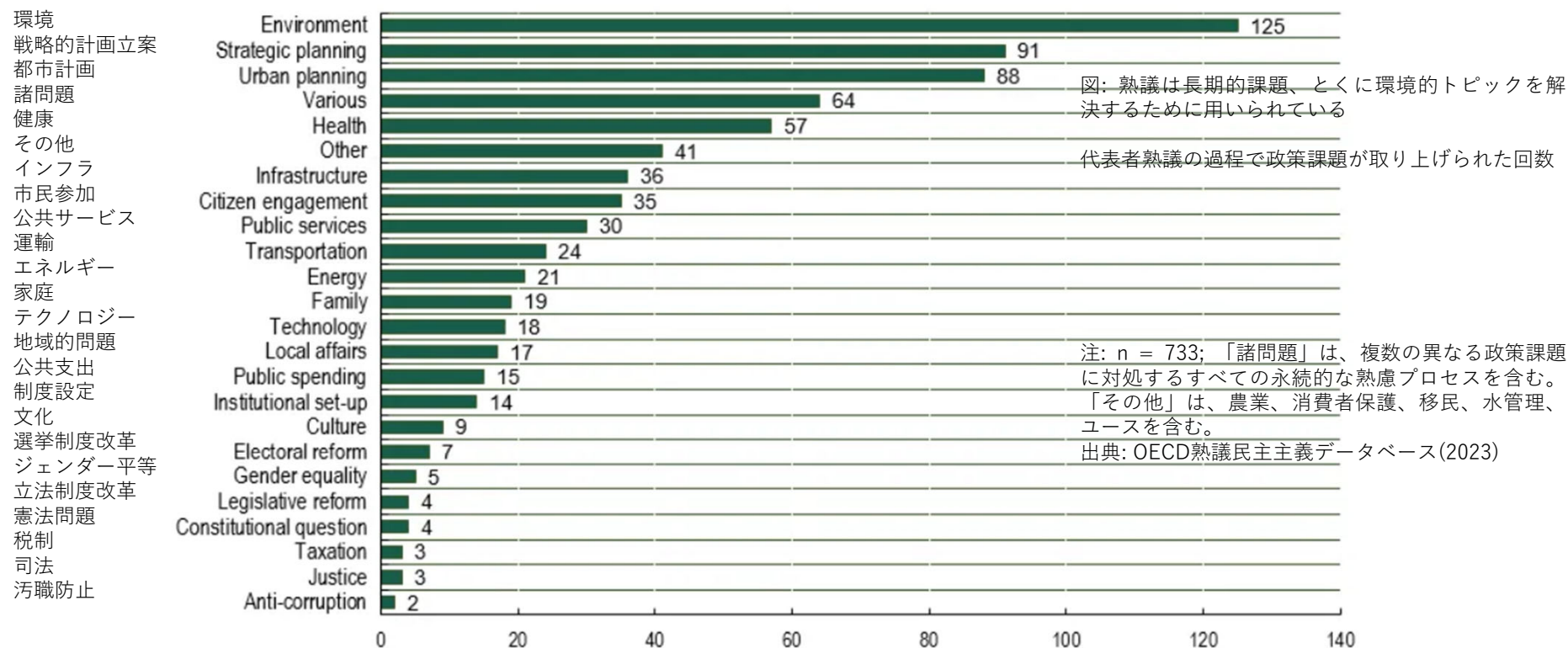
気候市民会議の論理

- インクルージョン
- オープンマインド
- 熟議
- 学習
- 意見交換
- 提言



Figure: Deliberation is being used to solve long term issues, in particular environmental topics

Number of times a policy issue has been addressed through a representative deliberative process

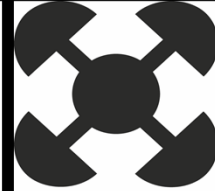


Note: n=733; Various include all the permanent processes as they regularly address different policy issues. Other include agriculture; consumer protection; migration; water management; youth.
Source: OECD Deliberative Democracy Database (2023).



Climate Assembly UK

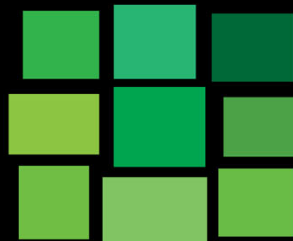
THE PATH TO NET ZERO



Global Assembly



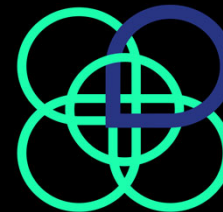
An Tionól Saoránach



The Citizens' Assembly



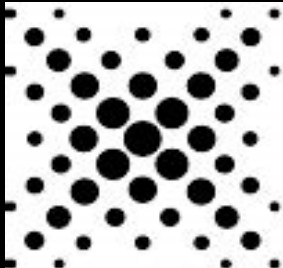
BÜRGERRAT



ASAMBLEA CIUDADANA PARA EL CLIMA



BürgerRat Klima #lasstunshandeln



Scotland's Climate Assembly
Seanadh Gnàth-shìde na h-Alba

Klima-Bürgerrot



気候市民会議の 広がり

- 気候変動を議題にする
- 政府への信頼の低下
- アイルランドCAの「成功」
- 社会運動—エクステンク
ション・レベリオン（ER）など
- 市民参画の実践者たち
- 自治体や国との接近
- 市民に影響することを目指す



ヨーロッパの 気候市民会議 の比較: 類似性

- なじみ深いCA型式
- 適応より影響緩和が優位
- 幅広いスコープ
- 一回限り/アドホック



気候市民会議の功績

- 多様なグループが結集
- 包摂的で敬意を持った熟議を達成
- 気候変動と脱炭素の知識の増大
- 市民会議メンバーはネットゼロが比較的達成可能だと考える
- 現在の政策より野心的な提言



ヨーロッパの気候市民会議の比較: 相違点

- 任務 (エージェントおよび幅の広さ)
- エビデンスと情報
- プロセスの設計とファシリテーション
- 実施期間
- 予算
- ガバナンス (公務員、議員、実務家、AM、専門家、ステークホルダー)
- 広報活動
- 制度的統合
- 政策の採用



ブリュッセルの常設の 気候市民会議

- 2023年2月に開始
- 65-100人の市民会議メンバー
- 年1回交代
- ブリュッセルの気候政策のサブテーマを各パネルが1つずつ担当
- 前回の市民会議で選ばれたアジェンダ
- これまでのトピックス: 住まい、食糧
- 提言への対応をモニターする委員会



気候市民会議の教訓と今後の方向性?

1. 市民会議のモデルは気候に対して有効に働く
2. 気候市民会議のモデルは多くの文脈に移植できる
3. 世界の他の地域への普及
4. もっと国境を越えた気候市民会議
5. 活動範囲と時間の課題
6. 適応とシステム変化の課題の強化
7. 気候市民会議を民主化する
8. より広い市民の関与
9. 他の気候エンゲージメント手段との統合
10. コミュニケーションの改善
11. 制度化され/社会に組み込まれた気候市民会議
12. これが一過性の流行ではないかという懸念



情報源

- 英国気候市民会議の評価:
<https://www.parliament.uk/globalassets/documents/get-involved2/climate-assembly-uk/evaluation-of-climate-assembly-uk.pdf>
- ‘気候市民会議のスコープ: 英国気候市民会議からの教訓’, *Sustainability* 13, no. 20: 11272 (2021). オープンアクセス:
<https://www.mdpi.com/2071-1050/13/20/11272>
- ‘公式および非公式な公共圏への気候市民会議の影響力: 英国気候市民会議のケース’, *民主的イノベーションの影響力*に収載, Colchester: ECPR Press, pp. 139-160. (2023) オープンアクセス:
https://pure.unamur.be/ws/portalfiles/portal/91415928/The_Impacts_of_Democratic_Innovations_PDF_Online.pdf#page=155
- スコットランドの気候市民会議調査報告書:
<https://www.gov.scot/isbn/9781804353073>
- 気候と生態系の危機に関する世界会議評価報告書:
https://researchsystem.canberra.edu.au/ws/portalfiles/portal/82182314/Global_Assembly_Evaluation_Report.pdf
- 来るべき2024/25: 気候市民会議: 気候変動下の世界のための新しい市民制度, De Gruyter.

